

2019年度 JCHO中京病院皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは大学医局への入局にこだわらず、中京病院皮膚科を研修基幹施設として、愛知医科大学病院皮膚科、名古屋市立大学病院皮膚科を研修連携施設として、また、別紙に記載している施設を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目 J を参照のこと)

C. 研修体制：

研修基幹施設：中京病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：小寺雅也（部長）

専門領域：膠原病、乾癬、アトピー性皮膚炎

指導医：伊藤有美 専門領域：アレルギー疾患、皮膚科一般

施設特徴：愛知県内でも有数の 22 病床数をもつ。年間の皮膚科入院患者数は約 700 例で、膠原病精査と治療、皮膚良性・悪性腫瘍手術と化学療法、アトピー性皮膚炎、乾癬の教育入院をはじめとして、重症薬疹、帯状疱疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など緊急性疾患にも対応する。膠原病症例は約 800 例で、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、混合性結合組織病、関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、サルコイドーシス、成人スティル病の症例も多数あり。また、皮膚外科の年間手術例は約 750 例で再発防止と整容面の両者を考慮した手術を積極的に施行。皮膚悪性腫瘍は手術治療（90～100 例/年）を第一選択とし、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。

研修連携施設：愛知医科大学病院皮膚科

所在地：愛知県長久手市岩作雁又1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：渡辺大輔（教授）

専門領域：皮膚ウイルス感染症、皮膚腫瘍

研修連携施設：名古屋市立大学病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市 瑞穂区瑞穂町川澄1

プログラム連携施設担当者（指導医）：森田明理（教授）

専門領域：乾癬、光線治療、皮膚外科

研修準連携施設：独立行政法人 労働者健康福祉機構 中部ろうさい病院

所在地：愛知県名古屋市港区港明1-1 0-6

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：小寺雅也（中京病院皮膚科部長）

委員：渡辺大輔（愛知医科大学病院皮膚科教授）

：森田明理（名古屋市立大学病院皮膚科教授）

：内山理恵（中京病院皮膚科病棟看護師長）

：伊藤有美（中京病院皮膚科医長）

前年度診療実績：

	皮膚科				
	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間手術数	指導医数
中京病院	111人	19.5人	773件	37件	2人
愛知医科大学	109.6人	9人	1199件	21件	8人
名古屋市立大	155人	24.6人	604件	50件	10人
合計	375.6人	53.1人	2576件	108件	20人

D. 募集定員：2人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，面接により決定（中京病院皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，応募方法については，応募申請書を中京病院のホームページよりダウンロードし，履歴書と併せて中京病院 総務企画課（専門医プログラム推進室）まで提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

中京病院皮膚科

小寺 雅也

TEL：052-691-7151

FAX：052-692-5220

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 中京病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 愛知医科大学皮膚科、名古屋市立大学病院皮膚科では、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、中京病院皮膚科の研修を補完する。また、これらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも3ヶ月の研修を行う。
3. 準連携施設である中部ろうさい病院では一人医長として最長1年間の研修を行う可能性がある。ここで研修する専攻医は、中京病院皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	準連携
d	基幹	基幹	基幹／連携	大学	大学
e	基幹	基幹	基幹	基幹	連携

- a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

- b : ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c : 研修 5 年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積むことで、更に臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- d : 研修基幹施設で研修を始め、最低 3 ヶ月以上地域医療を行い、その後、研究を開始し、大学病院での研修を続ける基礎研究コース
- e : 研修基幹施設で臨床の研修を始めた後に、最低 3 ヶ月以上連携施設での研修で視野を広げ、さらに臨床研究を開始する臨床研究コース。

2. 研修方法

1) 中京病院皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟 : 病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では 1 回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に 1 編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術 病棟	外来	手術	病棟	外来	病棟	
午後	病棟 回診	外来 入院カンファ レンス	病棟 病理カンファ レンス	手術 外来カンファ レンス	病棟 回診		

2) 連携施設

愛知医科大学医学部皮膚科

外来 : 診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

午前中は一般外来，午後はウイルス外来，乾癬外来，アトピー性皮膚炎外来，発汗外来などの特殊外来でそれぞれの疾患についての知識を深めることが可能である。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。毎週の病理カンファレンスでは当番制で病理標本の解説及び病理診断をし，評価を受ける。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟	病棟 手術		

名古屋市立大学病院皮膚科：

皮膚科としては有数の病床数（23床）を持つ。皮膚疾患に対する光線治療では国内でも代表的な医療機関である。診療の幅は非常に広く、皮膚科診療がすべてできる様に、乾癬をはじめ、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、白斑等の難治性疾患から、手術を必要とする皮膚悪性腫瘍、難治性潰瘍の治療を行い、褥瘡回診や、膠原病内科との連携による膠原病・リウマチ性疾患などの診療等、豊富な経験を積むことが可能である。

年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し症例検討などを行う。また、リサーチセミナーの開催、臨床に関するセミナーを多数行い、診療レベルの向上につなげる様にしている。抄読会では1回/週 英文論文を紹介することを行っている。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加できるような体制である。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	7:50～ 回診 病棟	外来	病棟	外来		
午後	12:00～ 手術	14:00～ 褥瘡回診 病棟 17:00～ 手術カンファレンス 18:00～ 膠原病カンファレンス (第1火曜のみ)	13:30～ 光線外来 17:00～ 臨床カンファレンス 17:30～ 病理カンファレンス	14:00～ フック7外来 17:30～ 抄読会 18:30～ シニレジセミナー (2, 4 週目) 病理勉強会 (1, 3 週目)	12:00 ～ 手術		

* 外来：適宜指導医のシュライバーにつく

* 入院患者：診療チームで受け持つすべての入院患者に主治医として併記

3) 研修準連携施設

中部ろうさい病院では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、研修基幹施設および近隣の指導医のいる研修連携施設(愛知医科大学)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定

11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う (開催時期は年度によって異なる)
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1， 2年目：主に中京病院皮膚科において，カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し，経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3 年 目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4， 5年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東海地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本

皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会)，学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また，看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は，研修プログラム管理委員会を開催し，提出された評価票を元に次年度の研修内容，プログラム，研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」，経験症例レポート 15 例，手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し，総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は，研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し，総括評価を記載した研修修了証明書を発行し，皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。

2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2018年4月26日
中京病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
小寺 雅也